

第1章 総論

1-1 計画策定の趣旨

生駒市(以下、「本市」という。)のごみ発生量は、平成12年度をピークに減少し、平成20年度以降平成25年度までほぼ横ばいでした。その後、平成27年度のごみ発生量の有料化に伴い、平成26年度はかけ込みによりごみ発生量が増加しましたが、平成27年度は減少しました。その後、ほぼ横ばいとなっています。これは、ごみ袋の透明・半透明化やごみ有料化等の施策を実施したことと、市民、事業者の協力によって減量された結果です。

国は、循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する施策を進めるに加え、平成27年9月の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に掲げられた17の目標(ゴール)を達成できるよう、様々な主体による循環型社会の形成に関する取り組みの促進に力を入れています。国が平成30年に策定した第5次環境基本計画や、第4次循環型社会形成推進基本計画では、SDGsの考え方を活用しながら、環境政策による経済社会システム、ライフスタイル、技術等あらゆる観点でのイノベーションの創出や、経済・社会的課題の同時解決を実現し、将来にわたって質の高い生活をもたらす新たな成長につなげていくという方向性を掲げています。

こうした状況の中、本市は令和元年7月に「SDGs未来都市」に採択され、環境モデル都市としての取り組みをさらに発展させ、様々な課題と向き合う地域モデルの実現を目指しています。また、環境省の呼びかけに応じて、令和32年までにCO₂排出量実質ゼロを目指すゼロカーボンシティ宣言を行いました。

今回の「生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」(以下、「本計画」という。)では、市民・事業者・行政が連携し一体となって循環型社会、ゼロカーボンシティの構築による持続可能な社会を目指すとともに、これまでのごみ処理のあり方を見直し、ごみ処理の適正化を図ります。



出典:国際連合広報センター

図1 SDGsの17のゴール

第1章 総論

1-1 計画改定の趣旨

国は、循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する施策を進めるとともに、平成27年9月の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に掲げられた17の目標(ゴール)を達成できるよう様々な主体による循環型社会の形成に関する取り組みの促進に力を入れています。また、国が令和6年に策定した第六次環境基本計画や第五次循環型社会形成推進基本計画では、資源循環を基盤とする循環経済(サーキュラーエコノミー)を成長戦略と位置付け、環境政策による気候変動・資源循環・経済・社会・地方創生の各分野の課題の同時解決を実現し、将来にわたって質の高い生活を実現する方向性を示しています。

本市においても令和元年7月に「SDGs未来都市」に採択され、環境モデル都市としての取り組みをさらに発展させています。また、環境省の呼びかけに応じて、2050年(令和32年)までにCO₂排出量実質ゼロを目指すゼロカーボンシティ宣言を行いました。

本市のごみ発生量(家庭系ごみ・事業系ごみの合計)は、平成27年度のごみ発生量の有料化に伴い、平成26年度はかけ込みにより一時的にごみ発生量が増加しましたが、その後は減少しています。新型コロナウイルス感染症の流行による外出自粛が続いた令和2年度は、家庭系ごみが増加し、事業系ごみが大きく減少する等の変化がありましたが、以降は、ごみ減量の取り組み、人口減少、物価高騰等の社会経済情勢の変化によりごみ発生量は減少傾向が続いています。

「生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」(令和3年6月)は策定から5年目を迎え、この間、市民によるごみ分別・減量の取り組みの進展、人口減少や物価高騰等の影響、新型コロナウイルス感染症の流行を契機としたテレワークの普及等のライフスタイルの変化により、ごみの発生状況に変化が見られます。さらに、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の施行や、第五次循環型社会形成推進基本計画等、循環型社会を取り巻く社会情勢も新たな局面を迎えていることから、今回「生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画)」(以下、「本計画」という。)として中間見直しを行うものです。

本計画では、これまでのごみ減量や資源化の成果が継続できるように市民・事業者・行政が連携し、一体となって循環型社会、ゼロカーボンシティの構築による持続可能な社会を目指すとともに、地域の活性化や賑わいの創出を通じて、人と自然が共生する住みやすく活動しやすいまちづくりを推進します。

図表1-1 SDGsの17のゴール



出典:国際連合広報センター

・タイトルを「計画策定の趣旨」から「計画改定の趣旨」に変更

・国の最新計画(第6次環境基本計画・第5次循環型社会形成推進基本計画)を反映

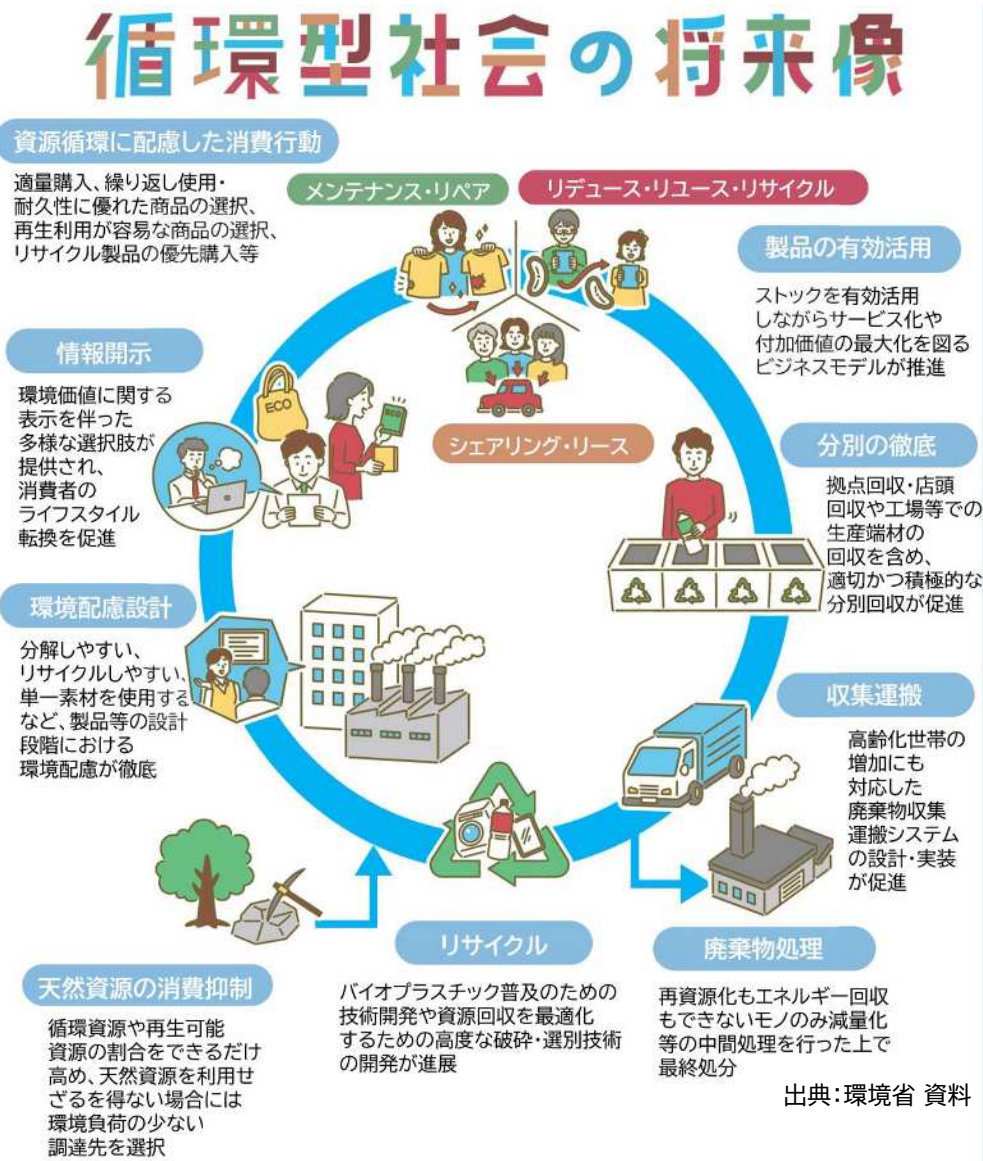
・「循環経済(サーキュラーエコノミー)」の考え方を追加

・ごみ発生量の推移を令和時代まで更新(コロナ・物価高騰・人口減少等を反映)

・「中間見直し(後期計画)」としての位置づけを明記

・地域活性化や賑わいの創出等、新たな視点を追加

図表1-2 国の第五次循環型社会形成推進基本計画が目指す循環型社会の将来像




・図表 1-2「国の第五次循環型社会形成推進基本計画の将来像」を新規追加

・国の方針に基づき、資源循環の全体像を視覚的に示したもの

1-2 計画改定の視点

5R の取り組みを通じて資源循環を進めるとともに、

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画) 新旧対応表		(その3)
現行計画(変更前)	改定計画(変更後) ※内容に変更がある箇所を赤文字にしています	備考
	<div>まちの活性化や課題解決に貢献する計画を目指します</div> <div>本市では、本計画の基本理念である「誰もが環境に配慮した行動を続けられるまち」に基づき、5R を中心としたごみの減量、再資源化の施策を進めてきました。しかしながら、計画策定以降、新型コロナウイルス感染症が流行し、市民や事業者の行動を一時的に大きく変える状況が発生し、ごみ排出量の推移が不安定な状況となりました。また、社会経済状況も大きく変化し、家庭系ごみの総量は人口減少と相まって減少しつつあるものの、1人1日あたりのごみ量は、令和6年度は概ね目標どおりであったものの、それまでの年度毎の達成状況はバラつきが見られます。一方、事業系ごみは、剪定枝の資源化を令和 6 年度から実施し、ごみ削減に大きく貢献しています。結果として、家庭系ごみと事業系ごみを合わせたごみ排出量の削減目標は、令和6年度末時点では、概ね計画通りとなっています。</div> <div>一方、水平リサイクルや紙おむつのリサイクルは、国の計画やガイドラインにおいて、今後に普及が求められる高度なリサイクルであり、これまでの先進地での取り組み状況を踏まえ、計画の見直しを行う必要があります。</div> <div>また、これまでの5Rの取り組みとごみ組成調査の結果においては、ごみ排出量の減量が進んでいるものの、燃えるごみに混入している食品ロスに該当するものは依然として高い割合となっており、取り組みの強化が必要な状況です。また、モノの価値を維持しごみにせずに使い続けるリユース・リペア意識も更に市民に浸透していく必要があります。</div> <div>本市では、市民や事業者が集い、交流し、地域の多様な活動が生まれる「複合型コミュニティ(まちのえき)」づくりを進めています。本計画では、各自治会がこの「まちのえき」の形成を進めていくためにも、この活動のサポートや推進を積極的に実施するためにリユース市や資源回収等の活動を実施することで、ごみ減量や資源循環を図るとともに、地域の活性化と賑わいの創出が求められます。</div> <div>さらに、ごみ減量や資源循環の取り組みを福祉や防災等、他分野の施策とも連携させることで、地域課題の解決や地域での支え合いの仕組みづくりにつなげ、市民や事業者と協働して効率よく地域の課題解決を行うことが求められます。</div> <div>以上のことから、本計画は更なる分別・資源化の強化等、5Rの実践を通じてごみ減量や資源循環を推進するだけでなく、地域の活性化や複合的な地域課題の解決を図る計画とします。</div> <div></div> <div>「持続可能で暮らしやすいまちづくり」を推進します</div>	<div>・新たに「1-2 計画改定の視点」を追加</div> <div>・社会情勢の変化(コロナ・人口減少・経済状況)を反映</div> <div>・家庭系・事業系ごみの現状分析を追記</div> <div>・高度リサイクル(水平リサイクル・紙おむつ)への対応を明記</div> <div>・食品ロス・リユース・リペア意識の強化を追加</div> <div>・「まちのえき」との連携を位置付け</div> <div>・福祉・防災等他分野との連携を明記</div> <div>・ごみ減量と地域活性化を一体的に推進する方針を明確化</div>

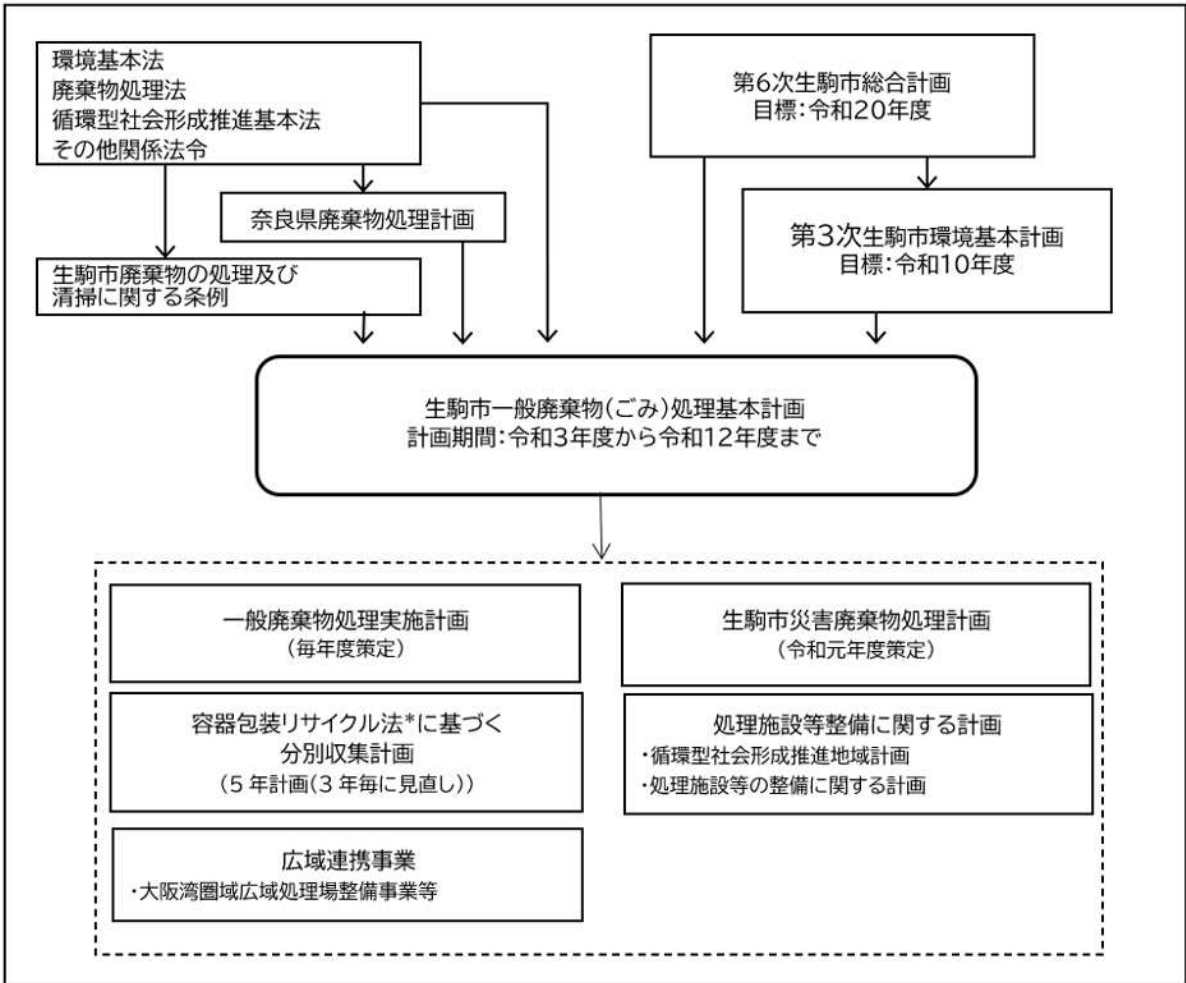
1-2 計画策定の目的

一般廃棄物処理基本計画は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下、「廃棄物処理法」という。)第6条第1項」に基づき策定される計画であり、本市の一般廃棄物の処理に関する計画を定めるとともに、長期的な視点に立った基本方針を示すものです。

本計画は、前計画(「ごみ半減プラン～生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画～」)の計画期間10年が経過したこと、また、平成28年に改正された国の廃棄物処理基本方針や、本市の近年の人口減少や後期高齢者の人口割合の増加を踏まえた新たな将来人口の予測等、本市のごみや資源を取り巻く社会情勢の変化に対応し、一般廃棄物の発生抑制や適正処理を総合的、計画的に推進するため、策定するものです。

1-3 計画の位置付け

本計画の策定にあたっては、「第6次生駒市総合計画」及び「第3次生駒市環境基本計画」、また国や奈良県が策定する計画と整合を図ります。



*容器包装リサイクル法:容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律

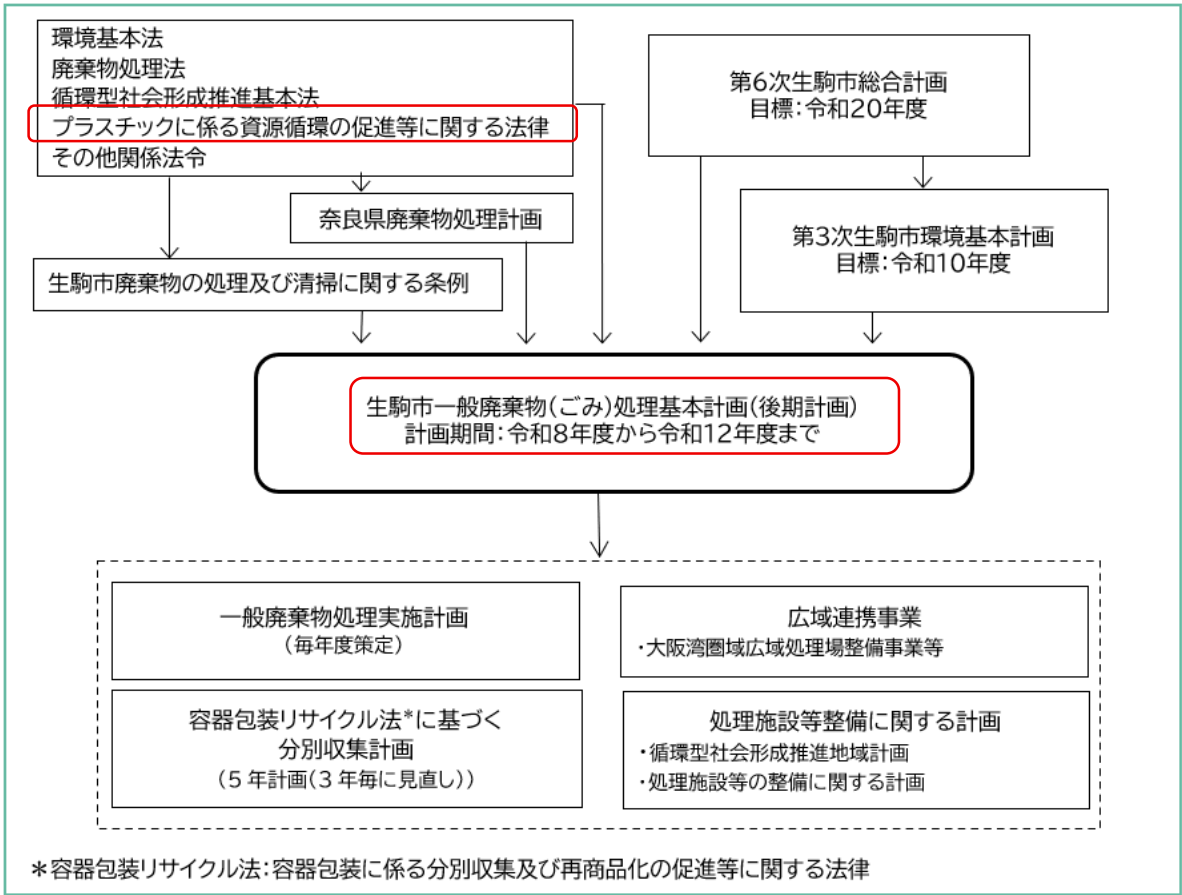
図 2 本計画の位置付け

1-3 計画の位置付け

本計画は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下、「廃棄物処理法」という。)第6条第1項」に基づき策定される計画であり、本市の一般廃棄物の処理に関する計画を定めるとともに、長期的な視点に立った基本方針を示すものです。

本計画の策定にあたっては、「第6次生駒市総合計画」及び「第3次生駒市環境基本計画」、また国や奈良県が策定する計画と整合を図ります。

図表1-4 本計画の位置付け



*容器包装リサイクル法:容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律

・計画策定の根拠として「廃棄物処理法第 6条第 1 項」を明記

・本市一般廃棄物処理計画としての位置付けと基本方針の提示を追加

・図表 1-4 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律を追加

・本計画(後期計画)の位置付けを明記

・「生駒市災害廃棄物処理計画(令和元年度策定)を削除

1-4 計画目標年度

本計画は、令和3年度を初年度とし、10年後の令和12年度を最終目標年度として策定しました。

計画期間内でも、中間年となる5年間を経過する令和7年度を目処に、計画の見直しを行います。また、社会経済情勢や廃棄物処理・資源化に関する法律・諸制度が大きく変化した場合、本市の実態と本計画の内容に差異が生じた場合等においては、適宜計画を見直します。

令和3年度 初年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (見直し)	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度 最終目標
<div>計画期間(10 年間)</div>									

図3 計画目標年度

第2章 ごみ処理に関する現状と課題

<割愛>

1-4 計画目標年度

本計画は、令和3年度を初年度とし、10年後の令和12年度を最終目標年度として策定した前期計画を、中間年である令和7年度において前期計画の検証を行い、改定(中間見直し)したものです。

今回の中間見直しでは、前期計画と同様に最終目標年度は引き続き令和12年度とし、これまでの取り組み成果を踏まえつつ継続的に進捗を管理していきます。

なお、今後、社会経済情勢や廃棄物処理・資源化に関する法律・諸制度が大きく変化した場合、本市の実態と本計画の内容に差異が生じた場合等においては、適宜計画を見直します。

図表1-5 計画目標年度

令和 3年度 初年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (見直し)	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度 最終目標
前期計画					<div></div>				
					後期計画 (本計画)				

第2章 ごみ処理に関する現状と課題

<割愛>

- ・前期計画を中間見直したことを明記
- ・最終目標年度は令和12 年度で変更なし
- ・取り組み成果を踏まえ、継続的に進捗管理を行うことを明確化
- ・図表 1-5 で令和 7 年度に見直しを行ったことを示し、前期計画と後期計画を矢印で視覚的に区別

第3章 ごみ処理基本計画の方針

3-1 計画の基本理念

ごみの減量・資源化の取り組みは日々の生活に密着しており、地球温暖化等の環境問題にもつながっています。このことから、市民、事業者、行政が SDGs やゼロカーボンシティの考え方にに基づき、環境に配慮した取り組みを続け、地域のコミュニティを活用し、持続可能な循環型社会の形成を目指すこととし、以下のとおり基本理念を定めます。

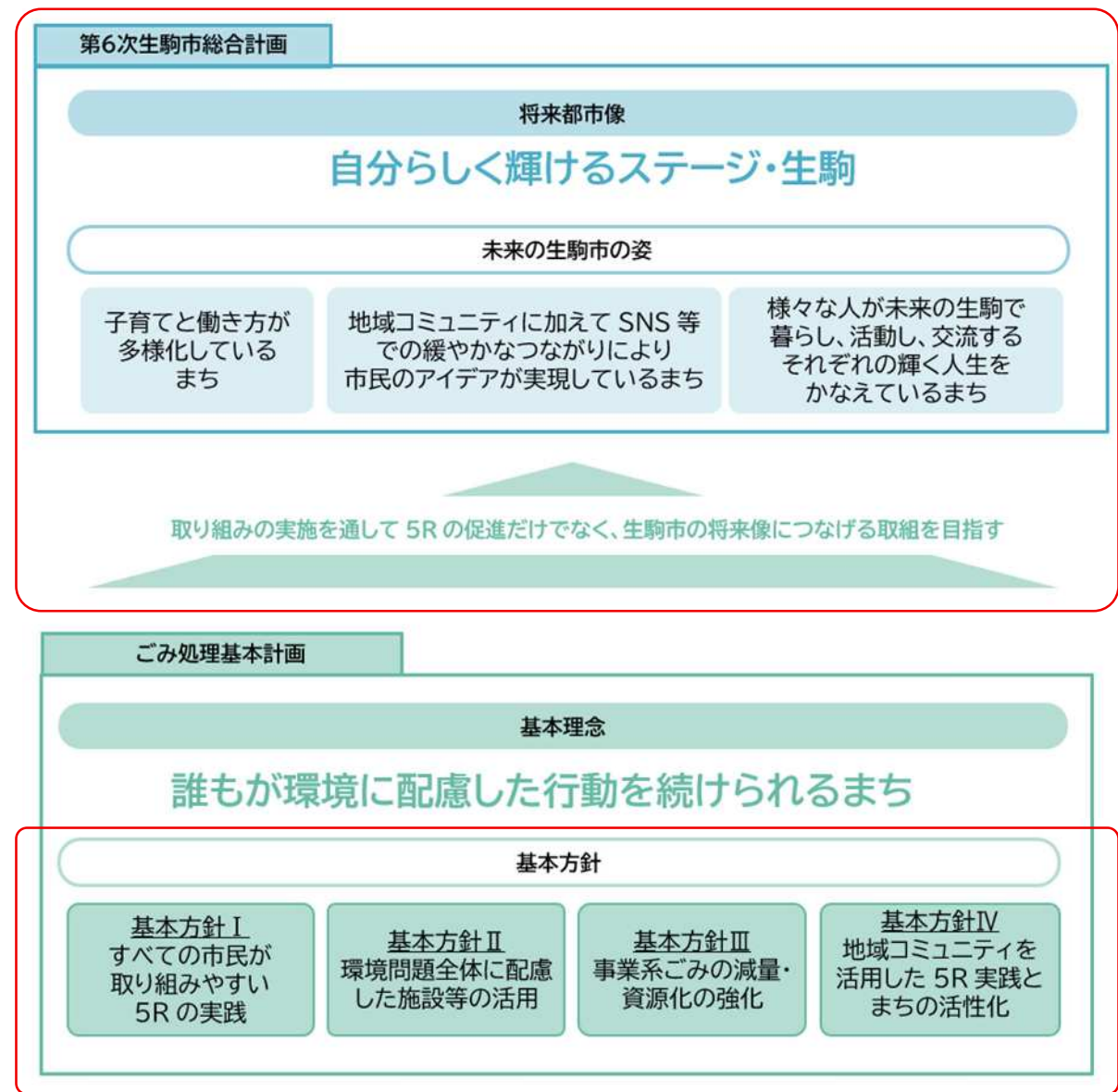
基本理念：誰もが環境に配慮した行動を続けられるまち

第3章 ごみ処理基本計画の方針

3-1 計画の基本理念と基本方針

ごみの減量・資源化の取り組みは日々の生活に密着しており、地球温暖化等の環境問題にもつながっています。このことから、市民、事業者、行政が SDGs やゼロカーボンシティの考え方にに基づき、環境に配慮した取り組みを続け、地域のコミュニティを活用し、持続可能な循環型社会の形成を目指すこととし、以下のとおり基本理念を定めます。

図表3-1 ごみ処理基本計画の基本理念と基本方針



・章タイトル変更:「計画の基本理念」から「計画の基本理念と基本方針」に変更。

・図表の追加:基本理念と基本方針の関係を図で示し、上位計画(第6次総合計画)とのつながりを明確化。

位置づけの強調:ごみ処理計画が生駒市の将来像に寄与する位置づけを明示。

<div>3-2 基本方針</div> <div>基本理念に基づき計画を推進するために、以下の 4 つの基本的な取り組み方針を定めました。</div> <div><div>基本方針Ⅰ すべての市民が取り組みやすい 5R の実践</div><div>本市はごみに関心のある人が多い一方、5R についての認知度が低いということが『市民アンケート「ごみに対することについて」』の結果から分かっています。ごみの減量には、市民一人ひとりの意識の向上と行動が重要です。このことから、まず最優先に無駄なごみを減らす「リデュース」、まだ使えるものは繰り返し使う「リユース」、やむなく廃棄する場合には可能な限り再生利用する「リサイクル」の 3R に、不要なものは断る「リフューズ」、修理して使う「リペア」を加えた 5R に取り組む必要があります。そのため、本市は、市民が 5R に取り組めるように、「リユース」の拠点の拡大や、「リペア」をしてくれるお店の紹介等の広報・情報発信等を積極的に実施し、5R の実践を進めます。</div><div><div>基本方針Ⅱ 環境問題全体に配慮した行動の推進</div><div>ごみ処理は、身近な生活環境の問題というだけではなく、ごみの焼却により地球温暖化にも大きな影響を与えています。本市は、前計画で達成できなかったバイオマスの資源化を進めて脱炭素社会の実現に貢献するとともに、あらゆる主体と連携したまちの美化や不法投棄対策を推進していきます。また、ごみ処理施設について環境に配慮し、省エネルギー化、延命化を図ります。</div><div><div>基本方針Ⅲ 事業系ごみの減量・資源化の強化</div><div>事業系ごみの排出量はほぼ横ばいであり、更なるごみの減量・資源化の推進が必要です。また、事業所の実態を把握し、事業者が責任を持ってごみの減量、分別排出を徹底するとともに、積極的にごみの資源化に取り組めるように指導や情報提供を行います。</div><div><div>基本方針Ⅳ 地域コミュニティの活用</div><div>本市では、「複合型コミュニティづくり」として、自治会エリア内の集会所や公園等日常的に歩いて集える場で、地域の担い手や外部の支援者がともに地域課題や社会課題を解決することを目的として、多様な交流や自立的なサービスが生まれる拠点づくりを進めています。コミュニティづくりの取り組みは生駒市 SDGs 未来都市計画にも掲げられており、今後のまちづくりでは大切な視点です。そこで、複合型コミュニティを活用したごみの減量・資源化を進めるとともに、ごみの減量・資源化を通じて地域の活性化を図ることを目指します。</div></div></div></div></div>	<div>3-2 基本方針の内容</div> <div>基本理念に基づき計画を推進するために、以下の 4 つの基本的な取り組み方針を定めました。</div> <div><div>基本方針Ⅰ すべての市民が取り組みやすい 5R の実践</div><div>ごみの減量には、市民一人ひとりの意識の向上と行動が重要です。このことから、まず最優先に無駄なごみを減らす「リデュース」、まだ使えるものは繰り返し使う「リユース」、やむなく廃棄する場合には可能な限り再生利用する「リサイクル」の 3R に、不要なものは断る「リフューズ」、修理して使う「リペア」を加えた 5R に取り組む必要があります。そのため、引き続き 5R について市民に啓発を行うとともに、市民が 5R に取り組みやすい環境づくりを目指し、「リユース」拠点の拡大や、「リペア」をしてくれるお店の紹介等の広報・情報発信等を積極的に実施します。</div><div><div>基本方針Ⅱ 環境問題に配慮した施設等の活用</div><div>ごみ処理は、身近な生活環境の問題というだけではなく、ごみの焼却により地球温暖化にも大きな影響を与えています。本市は、前計画で達成できなかったバイオマスの資源化を進めて脱炭素社会の実現に貢献するとともに、あらゆる主体と連携したまちの美化や不法投棄対策を推進していきます。また、ごみ処理施設について環境に配慮し、省エネルギー化、延命化を図ります。</div><div><div>基本方針Ⅲ 事業系ごみの減量・資源化の強化</div><div>事業系ごみの排出量は減少傾向であるが、更なるごみの減量・資源化の推進が必要です。また、事業所の実態を把握し、事業者が責任を持ってごみの減量、分別排出を徹底するとともに、積極的にごみの資源化に取り組めるように指導や情報提供を行います。</div><div><div>基本方針Ⅳ 地域コミュニティを活用した 5R 実践とまちの活性化</div><div>本市では、「複合型コミュニティづくり」として、自治会エリア内の集会所や公園等日常的に歩いて集える場で、地域の担い手や外部の支援者がともに地域課題や社会課題を解決することを目的として、多様な交流や自立的なサービスが生まれる拠点づくりを進めています。コミュニティづくりの取り組みは生駒市総合計画や生駒市 SDGs 未来都市計画にも掲げられており、今後のまちづくりでは大切な視点です。そこで、複合型コミュニティを活用したごみの減量・資源化を進めるとともに、ごみの減量の取り組みだけでなく、福祉や防災等の他の分野の課題解決に向けて市民や事業者との連携を図りながら、地域の活性化につなげることを目指します。</div></div></div></div></div>	<div>・「市民アンケート」の記述を削除し、現状説明を簡略化</div> <div>・「引き続き啓発」と「取り組みやすい環境づくり」を追加</div> <div>・文末を整理し、継続的取り組みを明確化</div> <div>・方針名を「環境問題全体に配慮した行動の推進」→「環境問題に配慮した施設等の活用」に変更</div> <div>・基本方針Ⅱは施設に関する内容に寄せるよう修正</div> <div>・方針名を変更し「5R 実践とまちの活性化」を追加</div> <div>・「生駒市総合計画」を新たに追記</div> <div>・ごみ減量に加え、福祉・防災等の課題解決や地域連携の要素を追加</div>
---	--	--

3-3 目標値

ごみ排出量を 15%削減します

以下の基本施策①から⑤を実施することにより、家庭系ごみ排出量を10.7%削減し、基本施策⑥、⑦を実施することにより、事業系ごみ排出量を10.5%削減します。さらに人口減少による4.6%の自然減を足して、ごみ排出量15.3%の削減をします。

表17 削減目標値

	基準年度 A (令和元年度)	人口減少のみを 考慮した排出量※ B (令和12年度)	人口減少に よるごみ減少量 C=A-B	人口減少に よるごみ減少率 D=C/A	最終目標年度 E (令和12年度)	施策の実施 による削減量 F=B-E	施策の実施 による削減率 G=F/A	削減率 D+G
ごみ排出量	33,780t	32,224t	1,556t	4.6%	28,610t	3,614t	10.7%	15.3%
家庭系ごみ排出量	24,759t	23,618t	1,141t	4.6%	20,951t	2,667t	10.8%	15.4%
事業系ごみ排出量	9,021t	8,606t	415t	4.6%	7,659t	947t	10.5%	15.1%

* 人口減少のみを考慮した排出量は、令和元年度の1人1日当たりのごみ排出量は変わらない前提として、将来予測人口（見込みの数値）と年間日数(365日)から算出しました。

3-4 基本施策

計画の目標達成のための4つの基本方針に基づき、以下9つの基本施策を設定しました。

表18 施策体系

基本方針Ⅰ すべての市民が取り組みやすい5Rの実践	
基本施策①	ごみを出さない行動の推進
基本施策②	分かりやすい情報提供と環境教育の実施
基本施策③	食品ロスの削減
基本方針Ⅱ 環境問題全体に配慮した行動の推進	
基本施策④	バイオマスの資源化
基本施策⑤	安心・安全なごみ処理体制の構築
基本方針Ⅲ 事業系ごみの減量・資源化の強化	
基本施策⑥	事業系ごみの減量に向けた取り組み
基本施策⑦	事業系ごみの資源化の促進
基本方針Ⅳ 地域コミュニティの活用	
基本施策⑧	複合型コミュニティを活用したごみの減量・資源化
基本施策⑨	すべての市民が暮らしやすいまちづくり

3-3 目標値

ごみ排出量を 18%削減します

以下の基本施策①～⑩を着実に推進することにより、ごみ排出量を令和元年度比で約18%削減します。家庭系ごみについては、一人当たりの排出量が概ね目標を達成していることから、引き続き従来の目標値である令和元年度比約15%の削減を目指します。また、事業系ごみについては、令和6年度から実施している剪定枝の民間処理施設でのバイオマスエネルギーとしての有効活用により年間約1,000tの削減を図ったことにより、目標値を大幅に見直し、令和元年度比約26%の削減を目指します。

図表3-2 削減目標値 ※調整中

	基準年度 (令和元年度)	実績 (令和6年度)	最終目標年度 (令和12年度)	削減率 (基準年度比)
ごみ排出量	33,780 t	30,236 t	27,610 t	18%
家庭系ごみ排出量	24,759 t	22,884 t	20,951 t	15%
事業系ごみ排出量	9,021 t	7,352 t	6,659 t	26%

3-4 基本施策

計画の目標達成のための4つの基本方針に基づき、以下の10の基本施策を設定しました。

図表3-3 施策体系

基本方針Ⅰ すべての市民が取り組みやすい5Rの実践	
基本施策①	5Rの実践によるごみを出さない行動の促進
基本施策②	分かりやすい情報提供と環境教育の実施
基本施策③	食品ロス・食品廃棄物の削減
基本方針Ⅱ 環境問題に配慮した施設等の活用	
基本施策④	バイオマスの資源化
基本施策⑤	安心・安全なごみ処理体制の構築
基本施策⑥	リサイクルの高度化、新たなリサイクルの推進
基本方針Ⅲ 事業系ごみの減量・資源化の強化	
基本施策⑦	事業系ごみの減量に向けた取り組み
基本施策⑧	事業系ごみの資源化の促進
基本方針Ⅳ 地域コミュニティを活用した5R実践とまちの活性化	
基本施策⑨	複合型コミュニティ(まちのえき)を活用した5Rの促進
基本施策⑩	すべての市民が暮らしやすいまちづくり

誰もが環境に配慮した行動を続けられるまち

・総削減目標を15%→18%に引き上げ

・家庭系：従来目標(15%削減)を継続





・事業系：剪定枝の民間処理による削減効果を踏まえ、26%削減へ見直し

・図表3-2 数値の見直し

【前回の懇話会以降に修正があった箇所】

・基本施策③「食品ロス」→「食品ロス・食品廃棄物」に拡大→食品廃棄物全体を含む取り組みに整理

・基本方針Ⅱの名称を変更(施設系施策を明確化)

<div>基本方針Ⅰ すべての市民が取り組みやすい5Rの実践</div> <div>基本施策① ごみを出さない行動の推進</div> <p>ごみの減量につながる啓発をすることにより、市民による具体的なごみの減量・資源化の実践を促します。特に、集団資源回収について品目の拡充を検討する他、市民団体等と連携し、市民にごみ減量の大切さを理解していただき、行動につなげるための啓発を継続的に実施します。</p> <p>（具体施策）</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭系指定ごみ袋サイズダウンセレクト ごみ組成調査の結果から、燃えるごみの減量が可能な事を踏まえ、特に45Lや30Lの指定ごみ袋を使っている方に、ごみを減らして一つ小さなサイズの袋を使っていただくことを勧めます。・リユース品の引き取り基準の見直し 清掃リレーセンターでリユース品の引き取り基準を見直し、回収量の増加を図ります。・食器市、リユース市の拡大 エコパーク21で実施している食器市、リユース市の拠点を拡大します。・リユース品のオークション販売 清掃リレーセンターで回収したリユース品をオークション形式で販売し、リユースを促進します。・世代別フリマアプリ活用講座の実施 家の整理等で発生するものについて、リユースを促進するため、世代別にフリマアプリの活用方法についての講座を実施します。・キッズフリーマーケットの実施 子ども達に物を大切にするもったいないの意識を学んでもらうため、子どもたち自らがフリーマーケットを実施し、リユースやリサイクルを促進します。・集団資源回収への補助金交付 現在の補助金交付対象を拡大し、金属等についても補助金の交付を検討します。 <div>関連する SDGs</div> <div><div><div>3</div><div>すべての人に健康と福祉を</div></div><div><div>12</div><div>つくる責任 つかう責任</div></div></div>	<div>基本方針Ⅰ すべての市民が取り組みやすい5Rの実践</div> <div>基本施策① ごみを出さない行動の推進</div> <p>ごみの減量につながる啓発をすることにより、市民による具体的なごみの減量・資源化の実践を促します。特に市民団体等と連携し、市民にごみ減量の大切さを理解していただき、行動につなげるための啓発を継続的に実施します。</p> <p>（具体施策）</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭系指定ごみ袋サイズダウンセレクト ごみ組成調査の結果から、燃えるごみの減量が可能な事を踏まえ、特に45Lや30Lの指定ごみ袋を使っている方に、ごみを減らして一つ小さなサイズの袋を使っていただくことを勧めます。・リペアの取り組みの促進 新規 市民や団体が主体となって実施するリペア活動を支援し、修理すれば再利用可能な製品の長寿命化を促進します。今後は、リペア活動を担う団体と連携を図ります。・食器市の継続・拡大 拡充 市内小売店やイベント等で月1回程度もったいない食器市を開催します。・リユース市の実施 拡充 まちのえきを拠点としてリユース市を開催し、リユースの推進と地域内での循環を促進するとともに、市民交流や地域の活性化、賑わいの創出につなげます。・リユース品のオークション販売 拡充 清掃リレーセンターで回収したリユース品をオークション形式で販売し、リユースを促進します。また、民間企業と連携し、より利便性の高いリユース品の販売を実施します。・民間サービスとの連携によるリユース促進 新規 フリマアプリ等を展開する民間事業のリユースにつながるサービスとの連携を強化し、市民がリユースに組みやすくなる取り組みを推進します。・学生等向けリユースの促進 新規 奈良先端科学技術大学院大学の学生等を対象に、生活に必要なリユース品(食器等)を提供する取り組みを進めます。・家庭での生ごみの資源化 キエーロ作成講座の開催や大型のキエーロの販売等、市民がキエーロをより活用できる環境づくりを行い、生ごみの資源化を推進します。個人の家庭に加えて、地域コミュニティでの導入・活用も推進します。・フリーマーケットの実施 拡充 子どもから大人までが参加できるフリーマーケットを開催し、物を大切にする「もったいない」の意識を広めます。子ども向けにはキッズフリーマーケットを実施し、学びの場としてリユースやリサイクルの理解を深めます。また、まちのえき等でも開催することで、地域全体でリユース・リサイクルの推進につなげます。・集団資源回収への補助金交付 既存団体の継続的な活動を支援するとともに、回収品目の拡充等検討します。 <div>関連する SDGs</div> <div><div><div>3</div><div>すべての人に健康と福祉を</div></div><div><div>12</div><div>つくる責任 つかう責任</div></div></div>	
--	--	--

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画) 新旧対応表		(その10)
現行計画(変更前)		改定計画(変更後) ※内容に変更がある箇所を赤文字にしています
<div>基本施策② 分かりやすい情報提供と環境教育の実施</div> <p>『市民アンケート「ごみに対することについて」』の結果において、ごみ減量・資源化の意識啓発や情報提供及び環境教育の充実を求める意見が多く見受けられました。そのため、分かりやすい情報提供をこれまで以上に充実させるとともに、これまで取り組みがやや遅れていた単身者や学生等を対象とした情報提供を実施することにより、市民による5Rの実践を促進します。また、男女を問わず誰もがごみの分別や減量に関心を持ち、行動につながるような啓発を行います。</p> <p>さらに、小中学校での環境教育を充実し、子ども達にごみ減量や資源を大切にすることもたいないの意識を持ってもらう取り組みを進めます。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・5Rについての取り組み募集 市民が実施しているごみの減量への取り組みを募集し、優秀なものを表彰しホームページやリーフレット等で紹介します。・各種の修理実施事業者の紹介ページ作成 市のホームページ等で靴やかばん、服、家具、おもちゃ等を修理するお店を紹介します。・ごみガイドブックの見直し・AIを使ったごみの分別案内、ごみに関するポータルサイト開設 市のホームページに分別案内、ごみ分別事典を掲載します。・自治会懇談会等の実施・単身者や学生等の転入者、高齢者等へのごみの分別・資源化の啓発・子ども 5R アドバイザーの養成 小学校での出前講座により、子ども 5R アドバイザーの養成を行います。 <div>関連する SDGs</div> <div><div>3</div><div>すべての人に健康と福祉を</div><div>4</div><div>質の高い教育をみんなに</div><div>5</div><div>ジェンダー平等を実現しよう</div><div>12</div><div>つくる責任 つかう責任</div></div> <div>基本施策①、②の実施による削減目標値</div> <ul style="list-style-type: none">・燃えるごみ中(指定袋内)の 古紙削減量…627t(-2.5%/10 年) 古着等削減量…35t(-0.1%/10 年) プラスチック製容器包装削減量…174t(-0.7%/10 年) (プラスチック製容器包装は、燃えるごみからは削減され、資源として増加するため、発生量としては相殺されます。)・啓発による燃えるごみ(上記 3 点を除く)削減量…348t(-1.4%/10 年)・大型ごみの削減量…39t(-0.2%/10 年)・燃えるごみ収集時の古紙類削減量…81t(-0.3%/10 年)	<div>基本施策② 分かりやすい情報提供と環境教育の実施</div> <p>5Rの取り組み促進のために、事業者と連携した情報提供を実施する等、より分かりやすく、市民に伝わる情報提供を充実させるとともに、これまで取り組みがやや遅れていた単身者や学生等を対象とした情報提供を実施します。また、誰もがごみの分別や減量に関心を持ち、行動につながるような啓発を行います。</p> <p>さらに、小中学校での環境教育を充実し、子ども達にごみ減量や資源を大切にすることもたいないの意識を持ってもらう取り組みを進めます。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・5Rについての取り組み募集 市民が実施しているごみの減量への取り組みを募集し、優秀なものを表彰しホームページやリーフレット等で紹介します。・各種の修理実施事業者の紹介ページ作成 市のホームページ等で靴やかばん、服、家具、おもちゃ等を修理するお店を紹介します。・ごみガイドブックの見直し・スマートフォンアプリを用いた分別案内、ごみに関するポータルサイト開設 市のホームページに分別案内やごみ分別事典を掲載し、情報発信の充実を図ります。また、ごみ分別促進アプリ「さんあ〜る」の利用を市民に呼びかけ、正しい分別の定着を進めます。さらに、発火・発煙等の事故につながるリチウムイオン電池やスプレー缶、ライター等の適正排出についても、啓発を強化していきます。・店舗でのごみ減量や分別に関する情報提供の実施 拡充 市民が日常的に利用する小売店や販売施設(例：スーパーやコンビニ、ホームセンター等)と連携し、ごみ減量やごみの分別に関する情報提供を行い、身近な場面での意識の向上を図ります。・自治会懇談会等の実施・単身者や学生等の転入者、高齢者等へのごみの分別・資源化の啓発・子ども 5R アドバイザーの養成 小学校での出前講座により、子ども5Rアドバイザーの養成を行います。 <div>関連する SDGs</div> <div><div>3</div><div>すべての人に健康と福祉を</div><div>4</div><div>質の高い教育をみんなに</div><div>5</div><div>ジェンダー平等を実現しよう</div><div>12</div><div>つくる責任 つかう責任</div></div> <div>見直し予定</div>	<p>・5R の取り組み促進のため、事業者連携による情報提供を追加</p> <p>・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」活用やリチウムイオン電池等の適正排出啓発を追加</p> <p>・店舗でのごみ減量・分別情報提供を新規・拡充</p>

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画) 新旧対応表		(その11)
現行計画(変更前)	改定計画(変更後) ※内容に変更がある箇所を赤文字にしています	備考
<div>基本施策③ 食品ロスの削減</div> <p>毎日の食事の中でやむを得ず廃棄するものがあり、この食べ残しや調理くず、手つかず食品等がごみとして排出されないよう、もったいないの意識を持っていただくための取り組みを進めます。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭、学校や飲食店での「食べきり運動」を推奨・フードドライブ、食品トロックの実施 <p>フードドライブや家庭で消費しきれない食品を物々交換する食品トロックを実施します。また、子ども食堂と連携を検討し、食品ロスの削減を図ります。</p> <div>関連する SDGs<div><div><div>1</div><div>貧困をなくそう</div></div><div><div>2</div><div>飢餓をゼロに</div></div><div><div>7</div><div>エネルギーをみんなにそしてクリーンに</div></div><div><div>12</div><div>つくる責任つかう責任</div></div><div><div>13</div><div>気候変動に具体的な対策を</div></div><div><div>14</div><div>海の豊かさを守ろう</div></div><div><div>15</div><div>陸の豊かさも守ろう</div></div></div></div> <div>基本施策③の実施による削減目標値</div> <div>・啓発による食品ロス削減量…888t(-3.6%/10 年)</div>	<div>基本施策③ 食品ロス・食品廃棄物の削減</div> <p>毎日の食事の中でやむを得ず廃棄するものがあり、この食べ残しや調理くず、手つかず食品等がごみとして排出されないよう、もったいないの意識を持っていただくための取り組みを進めます。そのために、家庭でできる「3キリ運動(使いキリ・食べキリ・水キリ)」の実践等、身近な取り組みを推進します。また、集まった食品は社会福祉協議会等を通じて、支援を必要とする方々へ届けることで、地域の支え合いにもつなげます。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭での「3キリ運動」の促進 <p>食材を無駄なく使い切る「使いキリ」や、残さず食べきる「食べキリ」、調理くずの水分をしっかりと切る「水キリ」等、日常でできる工夫を紹介しながら「3キリ運動」の啓発を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none">・飲食店での「3キリ運動」の推進 <p>3キリ運動を市内の飲食店から広げていきます。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校や各種団体との連携によるフードドライブの推進 拡充 <p>家庭や事業所で余っている未開封の食品を持ち寄り、必要とする方に届ける「フードドライブ」を、市内の民間企業、団体、学校等と連携して定期的に実施します。回収した食品は社会福祉協議会等を通じて福祉活動に活用し、市民全体で食品ロス削減を広げていきます。</p> <div>関連する SDGs<div><div><div>1</div><div>貧困をなくそう</div></div><div><div>2</div><div>飢餓をゼロに</div></div><div><div>7</div><div>エネルギーをみんなにそしてクリーンに</div></div><div><div>12</div><div>つくる責任つかう責任</div></div><div><div>13</div><div>気候変動に具体的な対策を</div></div><div><div>14</div><div>海の豊かさを守ろう</div></div><div><div>15</div><div>陸の豊かさも守ろう</div></div></div></div> <div>基本施策③の実施による削減目標値</div> <div>見直し予定</div>	<ul style="list-style-type: none">・基本施策名を「食品ロスの削減」から「食品ロス・食品廃棄物の削減」に変更・家庭でできる「3キリ運動(使いキリ・食べキリ・水キリ)」を新規追加・飲食店での3キリ運動を推進する取り組みを追加・フードドライブを学校・団体・企業等と連携して定期実施に拡充

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画) 新旧対応表		(その12)
現行計画(変更前)	改定計画(変更後) ※内容に変更がある箇所を赤文字にしています	備考
<div>基本方針Ⅱ 環境問題全体に配慮した行動の推進</div> <div>基本施策④ バイオマスの資源化</div> <p>家庭から排出されるごみのうち、厨芥類と剪定枝は合計で約27%(6ページ 図8)を占め、事業系ごみでも大きな割合を占めていることからバイオマスの資源化の検討を行います。</p> <p>また、学校給食残渣についても、ごみとしてではなく資源となるような取り組みを進めます。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・剪定枝の資源化 破砕機の貸し出しにより剪定枝の資源化を推進するとともに、その他の資源化の方法についても検討します。・生ごみの資源化 キエー口等の活用による生ごみの資源化を推進します。個人の家庭に加えて、地域コミュニティでの協同での導入・活用も推進します。・学校給食残渣の資源化のさらなる検討 <div>関連する SDGs</div> <div><div><div>13</div><div>気候変動に具体的な対策を</div><div></div></div><div><div>15</div><div>陸の豊かさも守ろう</div><div></div></div></div>	<div>基本方針Ⅱ 環境問題に配慮した施設等の活用</div> <div>基本施策④ バイオマスの資源化</div> <p>家庭から排出される燃やすごみのうち、堆肥化可能物(厨芥類や剪定枝)は合計で約33%を占めています。また、事業系ごみでも大きな割合を占めていることから、引き続きバイオマスの資源化の検討を行います。</p> <p>また、学校給食残渣についても、ごみとしてではなく資源となるような取り組みを進めます。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・剪定枝の資源化 【家庭系】 市民向けに破砕機の貸し出しを継続し、家庭で発生する剪定枝の資源化を推進します。【事業系】 事業活動で発生する剪定枝については、生駒市清掃センターで焼却せず、民間の資源化施設へ搬出することで、ごみの減量化と循環型社会の構築を図ります。こうした取り組みにより、剪定枝はバイオマスエネルギーとして有効活用され、リサイクルの推進にもつながっています。今後も引き続き資源化を推進し、事業系ごみの排出量削減を目指します。 <p>・エコパーク21での生ごみの積極的な受入 拡充</p> <p>学校給食や、民間事業所で発生した生ごみをエコパーク21で受け入れ、バイオガスの生成や肥料化(たけまるコンポ)を行う等、事業系の生ごみリサイクルを促進します。</p> <div>関連する SDGs</div> <div><div><div>13</div><div>気候変動に具体的な対策を</div><div></div></div><div><div>15</div><div>陸の豊かさも守ろう</div><div></div></div></div>	<p>・家庭系ごみ中の堆肥化可能物割合を 27%→33%に更新</p> <p>・剪定枝の資源化を家庭系・事業系で整理</p> <p>・事業系剪定枝は民間施設へ搬出し資源化(リサイクル)する</p> <p>・生ごみの受入をエコパーク21で拡充(学校給食・事業系ごみ)</p>

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画) 新旧対応表		(その13)
現行計画(変更前)	改定計画(変更後) ※内容に変更がある箇所を赤文字にしています	備考
<div>基本施策⑤ 安心・安全なごみ処理体制の構築</div> <p>環境に配慮した事業の実施や施設の見直しによって、環境保全の推進を図ります。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・不法投棄対策 不法投棄防止のため、パトロールの強化、看板の設置、監視カメラの貸出等を行います。・環境にやさしいごみ袋の導入検討 温室効果ガス削減のため、カーボンニュートラルである環境に配慮した素材を使用した指定ごみ袋の導入を検討します。・焼却施設等の改修 生駒市清掃センターの基幹的設備改良事業を実施し、省エネルギー化、施設の延命化を図ります。 <div>関連する SDGs<div><div><div>6</div><div>安全な水とトイレを世界中に</div></div><div><div>7</div><div>エネルギーをみんなにそしてクリーンに</div></div><div><div>11</div><div>住み続けられるまちづくりを</div></div><div><div>13</div><div>気候変動に具体的な対策を</div></div></div></div> <div>基本施策④、⑤の実施による削減目標値</div> <div><div>・剪定枝の資源化による削減量…127t(-0.5%/10 年)</div><div>・生ごみ堆肥化による厨芥類削減量…522t(-2.1%/10 年)</div></div>	<div>基本施策⑤ 安心・安全なごみ処理体制の構築</div> <p>環境に配慮した事業の実施や施設の見直しによって、環境保全の推進を図ります。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・不法投棄対策 不法投棄防止のため、パトロールの強化、看板の設置、監視カメラの貸出等を行います。・環境にやさしいごみ袋の継続 温室効果ガス削減のため、カーボンニュートラルである環境に配慮した素材を使用した指定ごみ袋の導入を継続します。・清掃センターでの他自治体の燃えるごみの受け入れ 新規 清掃センターの処理能力の有効活用を図るため、過去の処理実績の範囲内で、平群町や斑鳩町からの燃えるごみ・燃える大型ごみを受け入れ、安定かつ確実な処理を行うとともに財政負担の軽減を図ります。・廃食用油を活用したエネルギー循環システムの構築 新規 廃食用油をバイオディーゼル燃料に転換し、その燃料を使用する塵芥車(ごみ収集車)で回収を行うことで、循環型エネルギーの利用を推進します。・EV 式給電式塵芥車の導入拡大 拡充 環境負荷の低減を図るため、太陽光パネルで発電した電力を活用して走行する電気自動車(EV)式塵芥車(ごみ収集車)の導入をさらに推進します。これにより、ごみ収集業務における脱炭素化を進め、持続可能な社会(SDGs)への貢献を図ります。 <div>関連する SDGs<div><div><div>6</div><div>安全な水とトイレを世界中に</div></div><div><div>7</div><div>エネルギーをみんなにそしてクリーンに</div></div><div><div>11</div><div>住み続けられるまちづくりを</div></div><div><div>13</div><div>気候変動に具体的な対策を</div></div></div></div> <div>基本施策④、⑤の実施による削減目標値</div> <div>見直し予定</div>	<div>・環境にやさしいごみ袋の導入 → 継続</div> <div>・他自治体の燃えるごみ受入を新規実施(平群町・斑鳩町)</div> <div>・廃食用油を活用したバイオディーゼルシステム導入(新規)</div> <div>・EV 式塵芥車の導入を拡大</div>

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画) 新旧対応表			(その14)
現行計画(変更前)	改定計画(変更後) ※内容に変更がある箇所を赤文字にしています	備考	
	<div>基本施策⑥ リサイクルの高度化、新たなリサイクルの推進</div> <p>限りある資源を有効活用し、廃棄物の削減と循環型社会の形成を進めるため、水平リサイクルや製品プラスチックの再資源化等、リサイクルの高度化を推進します。</p> <p>(具体施策)</p> <ul style="list-style-type: none">・ペットボトル等の水平リサイクルの促進 新規・事業系紙おむつの資源化方法の促進 拡充 <p>高齢化社会が進むにつれ、年々増え続けている紙おむつについて、焼却施設や環境への負荷を減らすための資源化方法の調査や実施について検討を行います。</p> <ul style="list-style-type: none">・製品プラスチックの分別収集・リサイクルルートの検討 新規	<ul style="list-style-type: none">・ペットボトルの水平リサイクル促進(新規)・事業系紙おむつの資源化方法を拡充(基本施策⑦から移動)・製品プラスチックの分別・リサイクル検討(新規)	

基本施策⑥ 事業系ごみの減量に向けた取り組み

(具体施策)

- ・古紙類の減量・資源化方法の検討

関連する SDGs



基本施策⑦ 事業系ごみの資源化の促進

(具体施策)

- ・事業系ごみの実態把握、展開検査の実施

事業所ごみの実態を把握したうえで、分別の啓発や資源化の推進を行います。

- ・事業所訪問によるごみの資源化啓発、ごみの分別指導
- ・優良事業者表彰制度

関連する SDGs



基本施策⑥、⑦の実施による削減目標値

- ・事業所への指導、啓発による事業系ごみ削減量…947t(-10.5%/10年)

基本方針Ⅲ 事業系ごみの減量・資源化の強化

基本施策⑦ 事業系ごみの減量に向けた取り組み

(具体施策)

- ・事業系ごみ排出方法の明確化

・事業系ごみガイドブック作成

・業種別に取り組める減量手法の啓発

関連する SDGs



基本施策⑧ 事業系ごみの資源化の促進

(具体施策)

- ・事業系ごみの実態把握、展開検査の実施

事業所ごみの実態を把握したうえで、分別の啓発や資源化の推進を行います。

- ・事業所訪問によるごみの資源化啓発、ごみの分別指導

・優良事業者の事例紹介

・古紙類、その他資源物の資源化の促進 **拡充**

関連する SDGs



見直し予定

- ・施策番号を⑥→⑦に変更

- ・「事業系紙おむつの資源化」は基本施策⑥に移動

- ・古紙類の減量・資源化
は基本施策⑧に移動

具体施策の取り組み内容をそれぞれ記載

- ・施策番号を⑦→⑧に変更

- ・「優良事業者表彰制度」を「事例紹介」に変更

- ・「古紙類、その他資源物の資源化促進」を基本施策⑦から移動

<div>基本方針Ⅳ 地域コミュニティの活用</div> <div>基本施策⑧ 複合型コミュニティを活用したごみの減量・資源化</div> <div>地域で様々な取り組みを行う複合型コミュニティ。その取り組みの一部として、ごみに関する事を提案し適正なごみ処理につなげます。</div> <div>(具体施策)<ul style="list-style-type: none">・複合型コミュニティを活用した適正なごみ処理の促進 地域コミュニティでの生ごみ処理機やキエーロ、連帯冷蔵庫等の設置、リユース市や小型家電拠点回収の実施を提案し、ごみ減量につなげます。また、おもちゃ病院やプラレール広場の開催についても情報提供を行います。・ごみアドバイザーの養成 ごみの分別及び資源化やフリマアプリ活用に詳しいアドバイザーを養成し、地域コミュニティでのごみの減量、資源化を促進します。</div> <div><div>関連する SDGs</div><div><div><div>11</div><div>住み続けられるまちづくりを</div></div><div><div>12</div><div>つくる責任つかう責任</div></div><div><div>17</div><div>パートナーシップで目標を達成しよう</div></div></div></div>	<div>基本方針Ⅳ 地域コミュニティを活用した5R実践とまちの活性化</div> <div>基本施策⑨ 複合型コミュニティ(まちのえき)を活用した5R の促進</div> <div>地域で様々な取り組みを行う複合型コミュニティ(まちのえき)において、リユース市や資源回収等のごみに関する取り組みを実施し、適正なごみ処理や5Rの推進につなげることで、ごみ減量を図るとともに、地域の活性化や賑わいの創出を図り、持続可能なまちづくりに寄与します。</div> <div>(具体施策)<ul style="list-style-type: none">・複合型コミュニティ(まちのえき)を活用した5R実践の促進 拡充 キエーロの設置やリユース市、もったいない食器市の開催等、複合型コミュニティ(まちのえき)を通じた市民の5Rの取り組み促進につながる取り組みメニューを自治会等に提案し、地域と連携したごみ減量や資源循環の取り組みを促進します。 また、おもちゃ病院やプラレール広場等、各種団体が開催するイベントについても情報提供を行います。</div> <div><div><複合型コミュニティでの取り組みメニュー><ul style="list-style-type: none">・リユース市の開催・もったいない食器市の開催・フードドライブの実施・資源ごみの回収・キエーロの普及促進・その他環境啓発事業</div><div>※その他、アップサイクル等楽しみながら取り組めるメニューも検討します。 (アップサイクル:使わなくなったものや廃棄物をより価値の高いものへと作り変える等すること)</div></div> <div><ul style="list-style-type: none">・ごみアドバイザーの養成 ごみの分別及び資源化やフリマアプリ活用に詳しいアドバイザーを養成し、地域コミュニティでのごみの減量、資源化を促進します。</div> <div><div>関連する SDGs</div><div><div><div>11</div><div>住み続けられるまちづくりを</div></div><div><div>12</div><div>つくる責任つかう責任</div></div><div><div>17</div><div>パートナーシップで目標を達成しよう</div></div></div></div>	<div>・「複合型コミュニティ」に「まちのえき」を明記</div> <div>・5R の推進や地域活性化の視点を追加</div> <div>・「複合型コミュニティを活用した適正なごみ処理の促進」を「5R 実践の促進」に変更し内容を拡充</div> <div>・取り組みメニューを具体的に記載(リユース市、もったいない食器市、フードドライブ等)</div> <div>・「ごみアドバイザーの養成」は継続</div>
--	--	---

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画) 新旧対応表		(その17)
現行計画(変更前)	改定計画(変更後) ※内容に変更がある箇所を赤文字にしています	備考
<div>基本施策⑨ すべての市民が暮らしやすいまちづくり</div> <div>誰もがごみを排出しやすい環境をつくるため、従来の収集方法を見直します。</div> <div>(具体施策)<ul style="list-style-type: none">・まごころ収集の拡充 現在実施している高齢者や障がい者等、ごみの排出困難者への戸別収集の対象を妊婦、一時退院、退院直後の市民へ拡充します。・ごみ集積所の設置基準の見直し 家庭系ごみの有料化やプラスチック製容器包装の収集を実施したことにより、資源ごみの排出量が多くなったことや地形、高齢化社会といった実状を考慮して、ごみ集積所の設置基準を見直します。</div> <div>関連する SDGs<div><div><div>3</div><div>すべての人に健康と福祉を</div></div><div><div>11</div><div>住み続けられるまちづくりを</div></div><div><div>17</div><div>パートナーシップで目標を達成しよう</div></div></div></div> <div>3-5 実施スケジュール 本計画の実施スケジュールは、表19に示すとおりです。</div>	<div>基本施策⑩ すべての市民が暮らしやすいまちづくり</div> <div>誰もがごみを排出しやすい環境をつくるとともに、高齢化や地域特性に応じた支援体制を充実させます。また、福祉・防災・空き家対策等の他分野と連携しながら、ごみ減量施策を通じて複合的な地域課題の解決と、安心して暮らせる地域環境の実現を目指します。</div> <div>(具体施策)<ul style="list-style-type: none">・まごころ収集の実施 まごころ収集について、ごみ出しが困難な方に寄り添い、個々の状況に応じた解決策を丁寧に検討します。例えば、高齢の単身世帯や集積所までの距離や坂道等地理的要因でごみ出しが難しい方等、それぞれの事情に応じて相談に基づき柔軟に接し、支援が必要な方へサービスが届くよう対応します。・ごみ集積所設置等の要望への柔軟な対応 拡充 ごみ集積所は、従来の設置基準等を維持しながら、高齢化の進展や周辺の地形等により、ごみ出しの負担が大きくなっている地域が増えています。そこで、このような地域の実情を考慮し、市民からのご相談に基づき、ごみ集積所の設置場所の調整や新設等について柔軟に対応します。・多様な資源ごみ回収拠点の促進 スーパーマーケット等の店頭で資源ごみ回収を促進し、資源ごみの分別回収を進めます。・他課との連携による複合的な課題の解決 新規 福祉、防災、空き家対策等の他分野と連携し、ごみ減量施策を進めるとともに、市民や事業者と協力して複合的な地域課題の解決を図ります。</div> <div>関連する SDGs<div><div><div>3</div><div>すべての人に健康と福祉を</div></div><div><div>11</div><div>住み続けられるまちづくりを</div></div><div><div>17</div><div>パートナーシップで目標を達成しよう</div></div></div></div> <div>3-5 実施スケジュール (現在、検討中)</div>	<div>・基本施策番号を⑨から⑩へ整理</div> <div>・「誰もがごみを排出しやすい環境」から、福祉・防災・空き家対策等他分野との連携を追加</div> <div>・「まごころ収集」は相談に基づき柔軟に対応するよう変更</div> <div>・「ごみ集積所設置基準の見直し」は、「要望への柔軟な対応」に変更・拡充</div> <div>・「多様な資源ごみ回収拠点の促進」を新規追加</div> <div>・「他課との連携による複合的な課題の解決」を新規追加</div>

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(後期計画) 新旧対応表		(その18)										
現行計画(変更前)	改定計画(変更後) ※内容に変更がある箇所を赤文字にしています	備考										
	<div>市民ワークショップを開催しました</div> <div>市民のごみ減量や資源化に対する意見等を把握し、生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画改定の参考とするため、市民を対象としたワークショップを開催しました。</div> <table><tr><td>ワークショップ名</td><td>生駒市のごみ みんなで考えるワークショップ</td></tr><tr><td>開催日</td><td>第1回:8月31日(土) 午前9時 15 分～12 時 15 分 第2回:9月 6日(土) 午前9時 30 分～12 時 00 分</td></tr><tr><td>会場</td><td>生駒市役所(大会議室)</td></tr><tr><td>対象・参加人数</td><td>市民参加者 17 名</td></tr><tr><td>ワークショップの内容</td><td>●ワークショップ 1 日目 ・市 環境部の取り組みについて ・市のごみ減量・資源化の状況説明 ・市内の取り組み実践者からの取り組み事例紹介 (ひかりが丘自治会 藤堂 宏子 氏、NPO 法人関西ワンディッシュエイド協会 樽井 雅美 氏) ・生駒市のごみ減量や資源循環を進めるうえでの日常生活の中での課題と生駒市のよいところを探すブレインストーミング ●ワークショップ 2 日目 ・講演「アイデアを形にする方法」(CODE for IKOMA 佐藤 拓也 氏) ・市民、事業者、行政が協働した新たな取り組みを企画</td></tr></table>	ワークショップ名	生駒市のごみ みんなで考えるワークショップ	開催日	第1回:8月31日(土) 午前9時 15 分～12 時 15 分 第2回:9月 6日(土) 午前9時 30 分～12 時 00 分	会場	生駒市役所(大会議室)	対象・参加人数	市民参加者 17 名	ワークショップの内容	●ワークショップ 1 日目 ・市 環境部の取り組みについて ・市のごみ減量・資源化の状況説明 ・市内の取り組み実践者からの取り組み事例紹介 (ひかりが丘自治会 藤堂 宏子 氏、NPO 法人関西ワンディッシュエイド協会 樽井 雅美 氏) ・生駒市のごみ減量や資源循環を進めるうえでの日常生活の中での課題と生駒市のよいところを探すブレインストーミング ●ワークショップ 2 日目 ・講演「アイデアを形にする方法」(CODE for IKOMA 佐藤 拓也 氏) ・市民、事業者、行政が協働した新たな取り組みを企画	・11月に予定している子どもワークショップの実施結果を後日追記予定
ワークショップ名	生駒市のごみ みんなで考えるワークショップ											
開催日	第1回:8月31日(土) 午前9時 15 分～12 時 15 分 第2回:9月 6日(土) 午前9時 30 分～12 時 00 分											
会場	生駒市役所(大会議室)											
対象・参加人数	市民参加者 17 名											
ワークショップの内容	●ワークショップ 1 日目 ・市 環境部の取り組みについて ・市のごみ減量・資源化の状況説明 ・市内の取り組み実践者からの取り組み事例紹介 (ひかりが丘自治会 藤堂 宏子 氏、NPO 法人関西ワンディッシュエイド協会 樽井 雅美 氏) ・生駒市のごみ減量や資源循環を進めるうえでの日常生活の中での課題と生駒市のよいところを探すブレインストーミング ●ワークショップ 2 日目 ・講演「アイデアを形にする方法」(CODE for IKOMA 佐藤 拓也 氏) ・市民、事業者、行政が協働した新たな取り組みを企画											

第4章 計画推進のために

4-1 PDCAサイクルによる計画の進行管理

計画を円滑・着実に進めるとともに、より高次の取り組みへの展開を目指すため、Plan(計画の策定)、Do(実行)、Check(評価)、Act(見直し)のPDCAサイクルに基づく計画の適切な進行管理を行う必要があります。

具体的には、本計画に基づき実施する施策内容を毎年度取りまとめる一般廃棄物処理実施計画の策定時に、品目別ごみ排出量、焼却処理量、基本施策の実施状況を点検・評価することで進行管理を行います。また、その結果を基に前年度の一般廃棄物処理実施計画を見直して取り組みに反映することにより計画を推進します。

4-2 進捗状況の公表

本計画の進捗状況に関する点検・評価の結果は、ホームページ等によって、市民に公表します。

4-3 計画の見直し

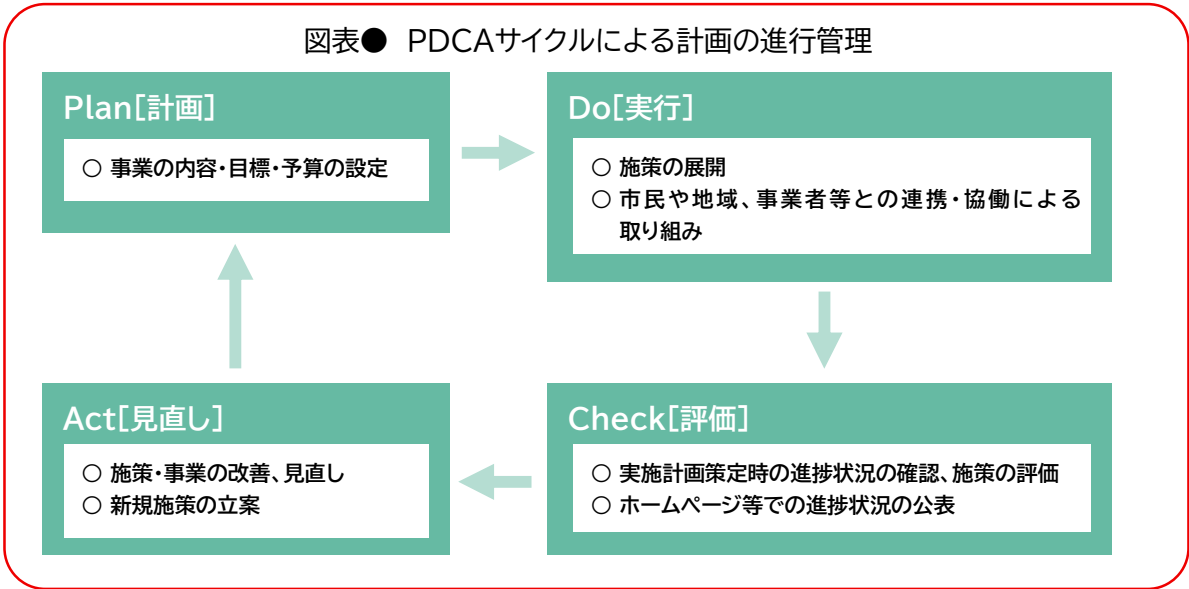
本計画は令和 3 年度から令和 12 年度までの 10 年間の計画ですが、中間年となる 5 年間を経過する令和 7 年度を目処に見直しを行います。また、世の中の情勢が大きく変化したとき、国の方針がしめされたときに計画の見直しを行います。

第4章 計画推進のために

4-1 PDCAサイクルによる計画の進行管理

計画を円滑・着実に進めるとともに、より高次の取り組みへの展開を目指すため、Plan(計画の策定)、Do(実行)、Check(評価)、Act(見直し)のPDCAサイクルに基づく計画の適切な進行管理を行う必要があります。

具体的には、本計画に基づき実施する施策内容を毎年度取りまとめる一般廃棄物処理実施計画(以下、「実施計画」という。)の策定時に、品目別ごみ排出量、焼却処理量、基本施策の実施状況を点検・評価することで進行管理を行います。また、その結果を基に前年度の実施計画を見直して取り組みに反映することにより計画を推進します。



4-2 進捗状況の公表

本計画の進捗状況に関する点検・評価の結果は、ホームページ等によって、市民に公表します。

4-3 計画の見直し

本計画は、令和8年度から令和12年度までの5年間の計画であり、最終目標年度を迎える前年度の令和11年度を目処に見直しを行います。また、世の中の情勢が大きく変化するときや、新たに国の方針が示される等されたときは必要に応じて計画の見直しを行います。

・PDCA サイクルの図の挿入：文章のみの説明を図に変更し、進行管理の流れを視覚的に理解しやすくした。

・計画見直し時期の明確化：計画期間を令和8～12年度とし、令和11年度を目処に次回見直しを行う旨を追記。